

■ 創立 130 周年記念事業・2016 年度関西大学博物館春季企画展 ■
「なごみのガラスー坂崎幸之助 和ガラスコレクションー」を開催
～ 坂崎コレクションおよび本学所蔵の品々約 400 点を展示 ～

関西大学博物館では、4月1日（金）から千里山キャンパス特別展示室にて、2016年度春季企画展「なごみのガラスー坂崎幸之助 和ガラスコレクションー」を下記のとおり開催します。

本企画展では、ロックバンド・THE ALFEEのメンバーで和ガラスコレクターの坂崎幸之助氏が30年以上にわたり蒐集した、明治から昭和前期を彩った和ガラスを中心に展示します。膨大なコレクションの中から厳選された和ガラスは、しょうゆびん、プレス皿（レース皿）、ミニチュアのおもちゃなど、日用品からノベルティまで懐かしく素敵な品々です。また、坂崎氏がブームを巻き起こしたウランガラスや、「商業ガラス発祥の地、大阪」をテーマとした和ガラスのほか、本学博物館が所蔵する『本山コレクション』（元大阪毎日新聞社社長 本山彦一氏が蒐集した考古学資料約2万点。国指定重要文化財・登録有形文化財）に含まれるガラス資料も合わせ、約400点もの品々を展示します。

本学では、2010年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された研究プロジェクト『社会的信頼システム創生センター（STEP）』が、天神橋筋商店街に設置したリサーチアトリエを拠点に様々な地域活性化プロジェクトを展開しています。本企画展はSTEPと博物館の共催で、江戸時代に天満ガラスの生産が始まり、大正から昭和前期に日本最大のガラス生産地だった大阪の忘れられた物語を呼び覚まし、地域への愛着を醸成することで地域の活性化につながればと期待しています。

会期中は一般の皆様にも広く開放しており、5月14日（土）には神戸市立小磯記念美術館と神戸ゆかりの美術館館長を務める岡泰正氏による講演会、また6月13日（月）には本企画展に多数のコレクションを提供いただいた坂崎幸之助氏をお招きして学術シンポジウムを予定しています。つきましては、ご多忙のところ恐縮ですが、取材・周知についてご検討いただきますようよろしくお願い申し上げます。

記

- 1 会 期 4月1日（金）～6月30日（木）
開館時間／10：00～16：00
休 館 日／日曜・祝日
※4月3日（日）、5月15日（日）、6月12日（日）・19日（日）は特別開館
- 2 会 場 千里山キャンパス 関西大学博物館特別展示室
吹田市山手町3-3-35（阪急電鉄「関大前」駅下車 北出口から徒歩約15分）
- 3 対 象 どなたでも可
- 4 入 館 料 無 料（事前申込不要）
- 5 展 示 品 坂崎幸之助氏が蒐集した大正期から昭和前期にかけて制作された食器、ガラス工芸品などをはじめ、近年注目が高まってきたウランガラス約60点、「商業ガラス発祥の地、大阪」をテーマとした和ガラス約50点、本学博物館所蔵のガラス資料約40点を含め、約400点（一括資料あり）を展示。（詳細は別紙をご参照ください）

以 上

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-1131 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

この伝統を、超える未来を。



◆ 開催趣旨

今回の展示は、関西大学 STEP プロジェクトの地域活性化プロジェクトの一環として大切にしてきた人と人とのつながりが転化し、音楽家・坂崎幸之助氏と結びついて形となったもので、関西大学博物館としては異色の展示会です。

関西大学博物館の中心コレクションは、『本山コレクション』と呼ばれる元大阪毎日新聞社社長 本山彦一氏が蒐集した考古学資料約 2 万点（国指定重要文化財・登録有形文化財）です。本山氏は、大正から昭和初期に、新聞界、言論界、実業界で活躍する傍ら本学法人の評議員も務め、大阪の文化や学術の振興に貢献されました。本山コレクションには、同氏の取り組みに賛同した各地の研究者や考古学愛好者などが世界中から取り寄せた資料も含まれており、地中海世界で出土した古代ガラスもあります。

大阪は、江戸時代に天満ガラスの生産が始まり、大正から昭和前期には日本最大のガラス生産地でした。今回の大阪ガラスを含む坂崎コレクションの展示が、忘れられた大阪の物語の一つを呼び覚まし、地域への愛着を醸成することが土台となって、本学が根差す地域の活性化につながればと期待します。

主 催 : 関西大学博物館 共催: 関西大学 STEP プロジェクト 協力: プロジェクトスリー
会 場 : 関西大学博物館特別展示室 ▼入館料無料
会 期 : 4月1日(金)～6月30日(木) ▼開館時間 : 10:00～16:00
休 館 日 : 日曜・祝日
特別開館 : 4月3日(日)、5月15日(日)、6月12日(日)、6月19日(日)

◆ 主な展示品

坂崎幸之助氏 和ガラスコレクション

大正期から昭和前期にかけて工場で大量に制作された食器、ガラス工芸品が中心。明治以前のものも含まれています。コレクションの多くは無銘で製造地を特定できないものも多いですが、坂崎氏自ら廃業した小さな町工場に出向いて掘り出した品物もあります。一部は商品名や工場マークなどから、大阪の工場で作られたことがわかっています。リキュールグラス、コップ、プレス皿、ガラス瓶各種、醤油瓶・ソース瓶、灰皿や文鎮などの文房具、ガラス製おもちゃ、かんざし、ボタン、アクセサリ、手芸パーツなど、約 400 点（一括資料あり）。近年注目が高まってきたウランガラス約 60 点を含みます。



おもちゃ「石蹴り」



ミニチュア「カップ&ソーサ、ゴブレット」

関西大学博物館蔵品

古代地中海世界のガラス（ローマングラス等）と、和ガラス（江戸時代から明治）、約 40 点。

◆ 講演会

「和ガラスの歴史と美ーびいどろ・ギヤマンからガラスへ（坂崎幸之助コレクションに寄せて）」

講 師: 神戸市立小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館 館長 岡 泰正 氏

日 時: 5月14日(土) 14:40～16:10

場 所: 千里山キャンパス 尚文館1階 マルチメディア AV 大教室

定 員: 150名(先着順)

参 加 費: 無料

申込方法: ①氏名(ふりがな) ②人数 ③電話番号 ④住所を記入の上、FAX(06-6388-9928) または E-mail(hakubutsukan@ml.kandai.jp)で関西大学博物館にお申込みください。定員に達し次第締め切らせていただきます。

※E-mailで申し込みの場合は、件名に「5月14日和ガラス講演会」と明記ください。

◆学術シンポジウム（予定）

講師：坂崎幸之助氏ほか

日時：6月13日（月）15：00～ ※詳細が決定次第ご案内いたします。

◆ キーワード

坂崎幸之助（さかざき こうのすけ、1954年生まれ）

ミュージシャンで、ロックバンド・THE ALFEEのメンバー。多趣味でも知られ、クラシックカメラのコレクター、爬虫類、両生類、猫、熱帯魚も飼育。さまざまな骨董品も収集されています。坂崎氏の和ガラスのコレクションと蒐集の経緯は、著書「和ガラスに抱かれて 坂崎幸之助のガラス・コレクション」（2001年 平凡社発行）にまとめられています。

大阪ガラス

江戸時代、中国吹きガラス製法が長崎から大阪・天満にもたらされ、珍しい色のガラス玉細工が始まったのが、大阪のガラス生産の始まりです。安永～文化年間（1772-1818）に天満が日本一のガラス製造地となりましたが、天保以降になると次第に江戸にその地位を奪われていきました。

明治維新後は、天満の淀川岸に造幣局工場が設置されて工場の余剰となったソーダ灰（炭酸ナトリウム）の下げ渡しが地場産業の殖産興業のために行われるようになったこと、さらには水利交通の発達で材料であるケイ砂や石炭燃料の運搬が容易だったことから、天満周辺にガラス関連工場が集中するようになり、旭硝子、東洋ガラスなども創業されました。第一次世界大戦で欧州向けにガラス製品の輸出が急増し、大戦終了時には、大阪府下に全国のガラス関連工場の約7割に当たる882工場が集中していました。



プレス皿「アザミ文皿」

ウランガラス

19世紀前半、ヨーロッパでガラスに発色材として微量のウランを混ぜ、黄色や緑色の色彩を持つ透明なウランガラスが製造され始めました。コップや花瓶、アクセサリなどの各種ガラス器があり、現在では骨董品、アンティークとして高値で取引されています。紫外線（ブラックライト）を照らすと、青緑色に怪しく蛍光発光します。坂崎氏が注目して蒐集をはじめたことを契機として、近年人気が高まっています。

日本では、大正から昭和前期、ウランガラスの食器・ガラス工芸品が工場で大量に造られました。さらに、戦前のSL（蒸気機関車）や電車の前照灯にウランガラスを使用したものもあります（京都の梅小路蒸気機関車館に展示されている一部の機関車にもウランガラスの前照灯が付いています）。日本のウランガラス製造は、ウラン利用が統制されるようになった第二次世界大戦終戦とともに終了しました。2003年になって、岡山県・人形峠（旧：上斎原村）で、人形峠の日本産ウランを使用したウランガラス「妖精の森ガラス」が再開発されました。



ウランガラス「蓋付唐草格子文蓋物」

◆ 展示品の画像提供について

本企画展展示品の画像を提供することが可能です。入手を希望される場合は、関西大学博物館までメールにてご連絡ください。

関西大学博物館（担当：山口、高橋）

E-mail : hakubutsukan@ml.kandai.jp TEL : 06-6368-1171

※取材をご希望の方は、お手数ですが別紙お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。